

# 月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

## 考えながら動く 動きながら考える

明德の5月は、学生たちが精力的に動いていた月でした。1年生の保育体験、2年生の教育実習Ⅱに向けた準備、学友会選挙、スポーツ大会など、さまざまな場面で、自分たちで考え動く学生たちの姿が見られました。動くことと考えることは、どちらも学びに不可欠です。今号は、そんな考えながら動き、動きながら考える学生を中心とした明德の「今」をお届けします。

# 特集 教育実習Ⅱに向けて

2年生

4 教育実習Ⅱ事前指導

6 あそび技能演習

1年生

10 保育体験

12 千葉県障がい者  
スポーツ大会に参加して

14 学生委員ページ

16 教員からのおすすめ

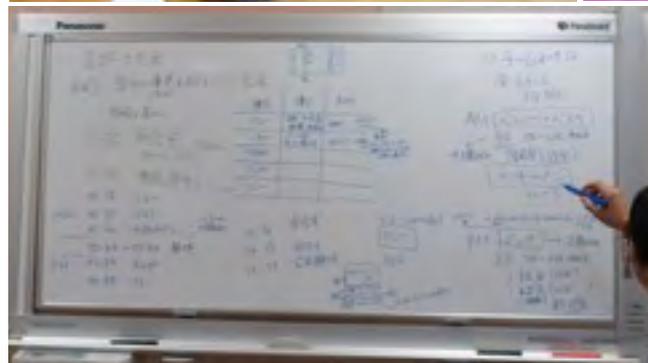
17 !Hot News!

18 学生生活から





特集 教育実習Ⅱに向けて

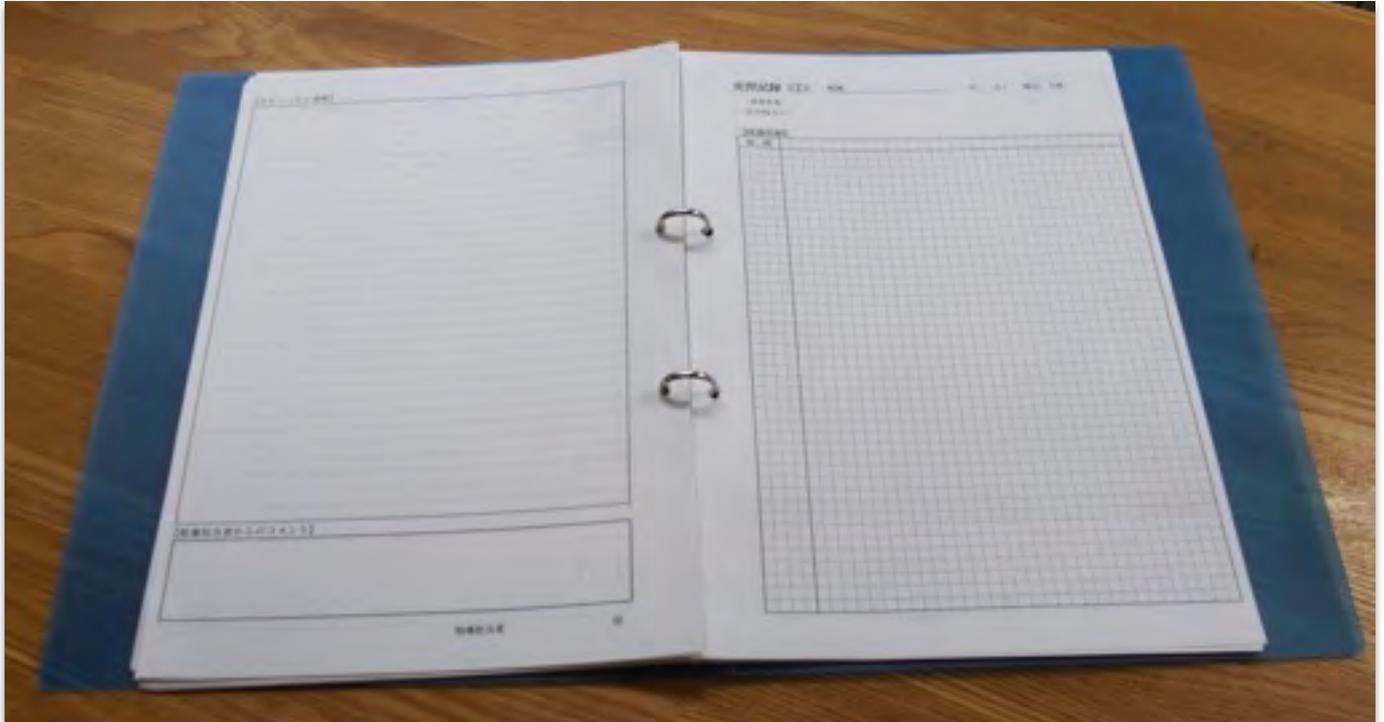




！2年生！

# 教育実習II 事前指導

大村 あかね



教育実習II事前指導は、新学期が始まってすぐに、個人票の作成、教育実習IIの位置づけや実習に向けてのスケジュールについての説明などが行われスタートしました。

準備の中では、6月の実習までに何をしなければならないのか自覚し、具体的に取り組めるよう、自分なりの目標を立て、実際にどう取り組んだか、毎日の日誌(頑張り表)をつけて毎週末に振り返ってきました。

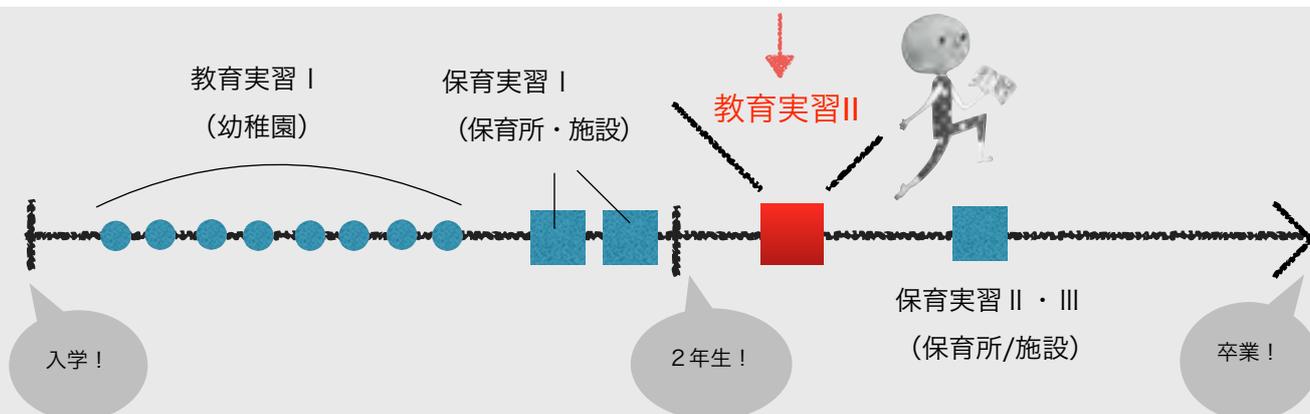
実習に行くにあたり学生が最も意識していたことの一つに、部分実習や責任実習の指導案や記録があります。記録は、書き方についての講義を受け、1年次の実習録をより良いものに書き直すという課題を行いました。指導案は、何枚も書くことで基本的な書き方を確認し、実践を意識することを目指しました。他にも、子どもに関する本を読む、発達について整理するなど様々な準備がありました。

忙しい学生にとっては相当な量の課題であり、まじめに取り組んだ人は本当に力がついたと思います。一方で、実習を控えた学生にとって、たくさんの提出物、特に「指導案」と聞くだけで、面倒だ、やりたくない、という気持ちもあったことと思います。

それ自体は、自然なことなのかもしれません。しかし、ここで実習に行く意味について、もう少し考えてみてほしいと思います。

2年間で最も長い実習が、3週間の幼稚園実習「教育実習Ⅱ」です。今年度から明德に新任された大村先生に、この教育実習に向けた授業「教育実習Ⅱ事前指導」の授業内容についてと、学生皆さんへのメッセージをいただきました。

## 明德2年間での実習



教育実習Ⅱは、免許取得に関わる重要な実習です。不安や緊張が全くない人はいないでしょう。ですが、3週間、幼稚園の現場で実習生として堂々と失敗しながらも学ぶことができる最後の機会でもあります。どうか、子どもと生活を共にできることを楽しみに思い、心を開いて思いきり挑戦してほしいです。部分（責任）実習では、「ああ楽しかった!」「もっとやりたかった」といった言葉を聞くことができるよう、こどもたちを知ろうとし、先生と相談し、熱心に準備・実践をしていきましょう。2年生の皆さんは、明德に入学してから、楽しいことをたくさん経験してきたのではないのでしょうか。楽しい体験を子どもたちと共にするためのヒントは、自分自身が楽しんだ経験にあるかもしれません。

私の前任校でも、6月に3週間の幼稚園実習があり、実習直前は学生の不安が高まる様子がありました。でも戻ってくると、とても良い表情で、頑張ったよ!と報告してくれたり、大変な思いをしたとしても、それを乗り切ったことがその後の励みになっている姿を見てきました。

明德でも、きっとこの最も長い実習をやり遂げることが、皆さん自身を一回り大きくしてくれるのではないかと、期待しています。是非前向きに、自分らしく、頑張ってきて下さい!いつも応援しています。



# あそび技能演習

深谷 ベルタ・高森 智子・益子 美土里・  
阿部 友理・山田 典子・田島 美帆



次回までの個別課題	
子ども向けの詩を覚えよう	
絵本の持ち方、読み方、選び方の復習	田島美帆 「stop and Go」がてきまようには
パネルシアター舞台づくり。	
しゃりけん にんじょうをあげえ	
かもつ列車の指導案の作成をし、内容を説明する。	

「あそび技能演習」は、1年生の時に皆さんが取り組んできた「あそび基礎演習」と「児童文化」（4月からの名称は「こどもと文化」）にまたがる教科で、保育者になった時を想定して、学生自身の興味や関心に沿って6つのコースが用意されています。音楽や身体表現系、あるいは造形表現系のコースもあれば、お話系など腕を磨きたいと考えるコースもあり、1つを履修します。が、正直に言えば、「ちょっと待った」というところもないとは言えません。

学生たちは大事な教育実習を6月に迎え、4月からその準備を始めても遅いくらいです。ここ数年の悩みの一つが、忙しさなどの理由で、実習の準備が十分にできていないまま3週間の実習に出かけてしまう学生もいたことでした。準備不足でなくても、何かと不安と緊張が伴う実習ですし、現場ではそれなりの実践的な力も期待されます。「できることがある」ことに「健全な自信」を抱くことに越したことはないはずですが、まだ多くはできなくても当然ですが、自信を持って「これだけはできる」と言えるようなことが一つはあるべきでしょう。そこで数年前から、本授業の実習開始までの時期にローテーションを組み、「あそび技能演習」の全てのコースに学生全員が参加し、実習準備を確実にクリアする方法を実施しています。本年度は更に工夫をし、一定の基準を設定して、5回の準備期間が終了した際に全学生に対する実技試験も導入しました。そのため、試験をパスできなくても、より強い関心があるコースを選択できます。さらに、これまでの授業で課された課題にも評価がつきますし、一人ひとりの改善点に対して教員は具体的なアドバイスができました。

演習授業の試験は、学生にとって大変緊張するものです。私（深谷）が担当する「パネルシアターの発表の場面」では、震えるほどに緊張する学生の姿を初めて見ました。また、完全に学生オリジナルの作品を持って臨んだ学生の姿も初めて見ました。その一方で、少し残念に思うこともありません。それは何か？ GWを挟んで設定された試験の日であったため、時間や手間のかかる課題に取り組むために時間的な余裕はあったはずですが、自分の頭で覚えなといけない素話や手遊びのような課題に対しては、試験では他人の頭をお借りするわけにはいかないので、頑張っって皆覚えてきたようでした。しかし、パネルシアターのような物となると違います。自分の作品が出来上がっていても、試験に他人が作った物で臨んだ学生が数名いたことは残念です。友達に「貸して」と言われれば、断るのにも勇気が要ります。それからもう一点。全員に取り組んで頂きたかった2つの課題は、どれも簡単に作れて、しかも季節に関係なく使えるもので、基本的な型の他、独自の表現も充分できるものでした。授業の合間や授業終了後も、ここ数年間経験したことのないような熱心さでパネルシアターを作っている学生たちもかなりいました。しかし、もう一方では、出された課題を自分に都合よく理解し、自分独自の絵人形のみを作り、他の登場人物を作って来なかった学生も目立ちました。登場人物一人しかいない演目はありえませんが、「パネルシアター」として不十分だったと言えましょう。実習が開始されるまでに是非補って欲しいものです。

## 皆さん、自信を持って実習に臨んでください

私のコースでは、言葉やお話を使った遊びを考えたり、お話ライブの企画・実践をしたりしています。この他、今年は学園祭にも参加する予定です。（何をやるかは楽しみに）

私のコースに限らず、あそび技能演習は、保育現場で役立つ技能を身につけることを目的としています。特に今年は、ローテーション期間中に学んだことが確実に自分のものとなることを願って、実技試験を行いました。限られた時間の中で多くの技能を習得するのは、並大抵のことではありません。けれども、この授業で学んだことは、決して無駄にはならないはず。皆さん、自信を持って実習に臨んでください。皆さんが充実した日々を終えて学校に戻ってくるのを、楽しみにしています。



高森 智子先生

言葉とお話であそぼう

## 実習を終えてたくましくなった皆さんに会えるのを楽しみにしています

私の授業ではキッドビクスをベースに「体を育てるあそび」を取り上げます。学生の皆さんが保育の現場に出た時に役に立つように、私が保育園や幼稚園でやっているものを授業で体験してもらい、いくつか指導できるようにしてもらいます。そのために附属幼稚園でキッドビクスを指導する機会を持っています。

さて、これから幼稚園実習に行かれる2年生の皆さん、実習では子どもたちや先生方とたくさんの時間を過ごし、いろいろなものを見て、聞いて、感じててください。失敗を恐れずつらいことがあっても逃げずに乗り越えてください。それが皆さんのこれからの人生に必ず役に立ちます。実習を終えてたくましくなった皆さんに会えるのを楽しみにしています。



益子 美土里先生

体を育てるあそび

## 常に向上心を持ち、子ども達とかかわってほしいと思います

この授業では、前半は簡単な音楽表現遊びや幼稚園実習で行う活動の検討及び指導案作成、後半は学園祭で発表する音楽劇の創作を通して劇遊びの援助のあり方について学んでいます。毎年多くの学生を悩ませる指導案の作成。今年度受講を選択した22名の学生のうち、半数以上が受講の希望理由欄に「自分は指導案を書くのが苦手なので」「書き方をマスターしたい」「もっと詳しく勉強したい」など前向きな内容が書かれていたことに胸が熱くなりました。この向上心こそが実習におけるモチベーションの大きな柱となることでしょう。3週間の長い実習ですが、常に向上心を持ち、子ども達とかかわってほしいと思います。



阿部 友理先生

音楽表現あそびの援助のあり方（実習指導案）

## 失敗を恐れずチャレンジし、実り深い実習となりますよう、エールをお送りします

4月の授業では“ちいちゃいちゃいのおばあさん”に驚かれた方が多かったことと思います。おばあさんが最後に何と言ったのか、「イギリスの昔話」を確かめてみて下さいね。

5月からはいよいよ実技演習が始まりました。絵本の読み聞かせ、紙芝居の演じ方、手遊び、指人形など、お話を楽しみます。7月には保育所での学外演習と共に、お話の語りが入ります、お話を覚えるという事はかなりのエネルギーを要しますが、保育者としての、自身の財産が貯まるという事です。積極的に挑戦し財産を増やしてほしいと思います。

さて、6月はいよいよ幼稚園実習が始まります。実習は一種の自己改革とよく言われます。失敗を恐れずチャレンジし、実り深い実習となりますよう、エールをお送りします。



山田 典子先生

お話を楽しもう

## 「楽しいからやる！」と思えるような経験を

この授業では、主にピアノを使った音楽活動を体験し、保育現場にどう活かしていけるのかを考えていきます。

これまでには、簡単なピアノ伴奏を使ったストップアンドゴーという遊びや、既存の手遊び歌の替え歌づくり（「千葉」という名曲が生まれました！）、紙コップを使った音遊び等を体験しました。

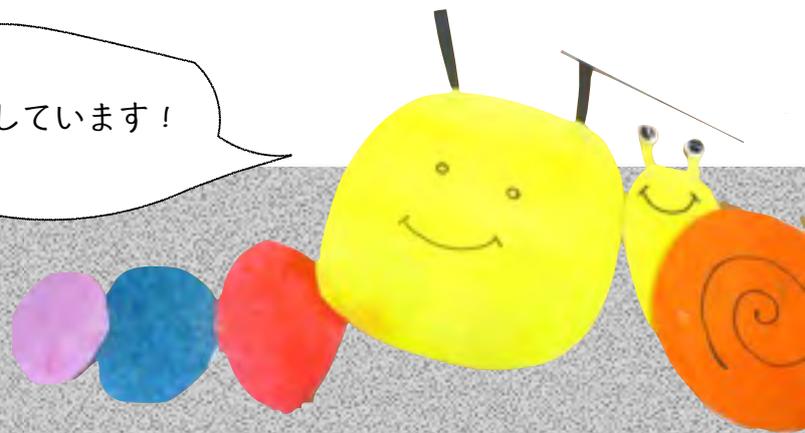
音楽は「授業科目だから」「課題が出るから」「就職したら必要だから」やるのではなく、「楽しいからやる！」と思えるような経験を、学生のうちにたくさん積んで、本来自分が持っている「遊び心」にまずは気づいてほしいと思っています。

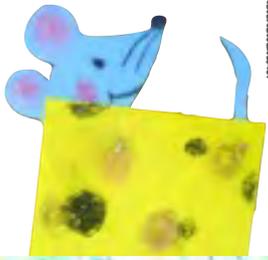


田島 美帆先生

現場でつかえるピアノの可能性を探る

応援しています！





！1年生！

# 保育体験

池谷 潤子

実習に向けた一歩！

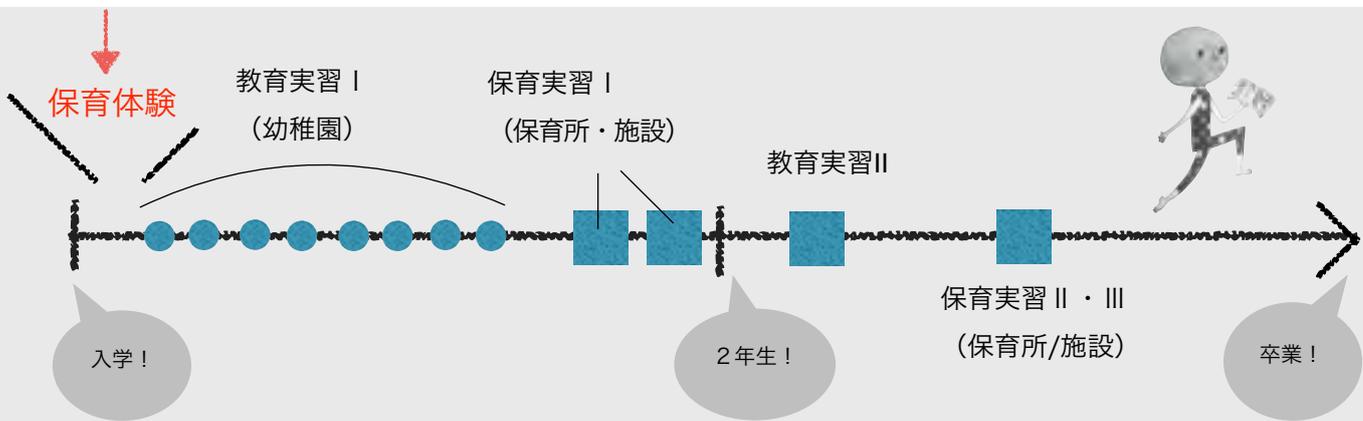


「保育体験」。それは、入学して間もない学生が、「実習」という形ではなく、まずは保育の現場を「体験」する試みです。こどもに出会い、保育者に出会い、そしてそこでの出来事を仲間と語り合うことです。これは、明徳の学びで大切にしている、「体験から学ぶ」ことそのものです。

今年度も、4月から1年生が様々な保育の場へと体験に赴きました。このような貴重な体験にご協力いただいている園の皆さまにお礼を申し上げます。そして、そんな「保育体験」での学生の様子について、担当教員の池谷先生から報告です。

4月に入学した1年生は、入学式から3週間後の4月22日に1回目、5月に2回目と、11グループに分かれて幼稚園と保育所での保育体験（半日）を行ないました。

当日の朝、集合場所に来た学生たちのなかには、前日の晩はとても緊張してなかなか眠れなかったという人もいて、子どもたちに出会う嬉しさと不安が入り混じった表情をしていました。

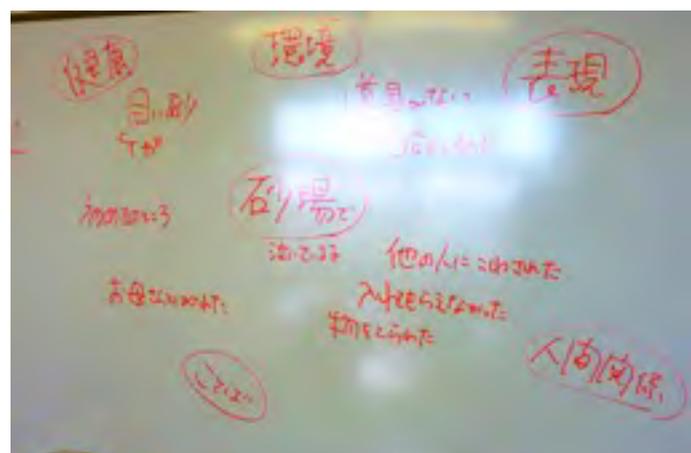


## 明德2年間での実習

しかし実際に園を訪問して保育に入れていただくと、今まで触ったことのない幼虫や虫を子どもたちから差し出されて恐る恐る触っている学生。次々と子どもたちに誘われて、鬼遊びで休むことなく園庭を走り回っている学生。保育園では、園庭で一緒に遊んでいた1歳児が自分の腕のなかで眠り込んでしまった学生など、それぞれが自分なりに子どもたちと関わりながら過ごしていました。

翌週の保育体験レポートの読み合わせでは、子どもたちが自分の緊張を解いてくれたこと、両方の手をそれぞれ別の子どもに引っ張られてどちらを優先したらよいのか困ったこと、喧嘩の仲裁に困ったこと、年長児は自分が思っていたよりもしっかりして驚いたこと、先生方が演じていたパネルシアターに感動して自分も演じてみたい！と思ったなどの感想が出されるだけでなく、子どもたちの気持ちを受け止めることができる保育者になるために学校での勉強もしっかり頑張っていきたい！という決意をレポートに書いている学生も多く、心強く感じました。

学校での学びと幼稚園での体験が結びつき、1年生の学びが深まっていく実習のスタートです。





# 千葉県障がい者スポーツ 大会に参加して

月歩学歩学生委員：武田 有結



5月22日（日）、千葉県障害者スポーツ大会がありました。この大会はスポーツが好きな障がい者の方が集まり、様々な競技で競うものでした。陸上競技や球技、跳躍などの種目があり、1年生はボランティアとして参加しました。

学生の中には、ボールを投げさせていただいたり、普段はなかなか出来ない貴重な体験ができ、「来年も行きたい」という声が多くありました。選手の方は、誰もが真剣で、応援に来ている方もたくさんいました。

私は跳躍を担当しましたが、このようなボランティアの経験は少なく、初めは上手くサポートができるか不安もありました。しかし、スタッフの方が一生懸命応援している姿を見ているうちに、気づけば不安もなくなり、自分に何ができるかを考えていました。また、立ち幅跳びでは、多くの選手の中で、足が不自由な方が1人参加していました。片足が動かないため、少し心配の声もありましたが、スタッフや見に来ていた方、他の選手の方と多くの方が応援していて、とても盛り上がりました。たった1人で、たくさんの方を笑顔にしている、すごいと思いましたし、とても印象に残っています。

選手の皆さん一人ひとりが、良い記録を出すために頑張っている姿に、勇気をもらいました。

## みんなの感想



給水係だったのですが、出番が終了し帰るところの選手の方と「おつかれさまですー」など話しながらの作業で楽しかったです。「練習の時はもっと走れた」とかそんな話も聞けて楽しくできました。また、「ありがとう」と言ってもらえたのも嬉しかったです。（泉 郁花）

もう一度参加したいと思った。自分と一歳違いの子が大会新記録を出した瞬間を目の前で見ることができた時、思わず「スゲー!!」と叫んでしまうくらい感動した。自分が陸上を経験していたからわかることだけど、選手が自分の番まで待っている間、他の選手と話していて緊張せずにリラックスして競技に取り組んでいた。中学校・高校の陸上大会は選手全員がピリピリした空間でやっていたので、同じ陸上でも大きな違いがあると思った。（足立 孔亮）



初めて障がい者スポーツ大会に参加して、改めてこのような機会に参加できたことが嬉しく、感謝します。最初は「障がい者」という言葉だけで勝手に自分の中でイメージをしてしまい、不安と恐さがとてもあり、進んで活動したいとは思いませんでした。しかし、自分も中学生の時に陸上をやっていて、天台のスポーツセンターは夢の舞台だったので、障がい者の競技者のみなさんもきっと同じ気持ちなんだろうと考えると、一生懸命サポートしよう！と思いました。私は誘導係だったので、たくさん走ってがんばりました。途中、仕事をしていると、スタッフの教え子さんと話せる時間があり、障がい者施設のことを教えてくれました。その方は、今の現場、陸上競技に病みつきになってもう10年目になるそうです。その方はすごく輝いていて感動しました。貴重な時間ありがとうございました。（伊藤 未来）



障がい者スポーツ大会の感想は、まず、とても大変だった。何が大変だったかというと、僕は誘導の係で障がい者の方を競技する場所まで連れて行くのだが、足の不自由な方を誘導する際は歩く速度を障がい者の方に合わせるので、いつもよりだいぶ遅く歩いて行きました。しかしとても良い体験だと思いました。（猪又 大地）

選手全員が全力で、また、とても楽しそうにやっていたなと思いました。私の目の前で、手話で楽しそうに話しているところを見て、音のない会話に少し不思議な感覚だなと見ていました。手話で話しかけられた時には焦りました。（小野寺 晴香）



障がい者の方たちの頑張っている姿を見て、涙ぐんだ場面が何度かあった。私は表彰係だったけれど、表彰された人の喜び方にいろんな種類があって、「見て～」と言って自慢してくる人や、一人で喜びを噛みしめている人などがいた。でも何よりも、どの人もすごく嬉しそうで、私もすごく嬉しくて温かい気持ちになった。障がい者のスポーツ大会ということで、行く前はかわいそうだなとか思っていたけど、当日はそんなことよりみんな生き生きしていて、感心や感動の方が多かった。（清塚 優花）

障がい者の方と触れ合うのは初めてでとても緊張しました。一番見てすごいなと思ったのは、目の見えない方の走り幅跳びです。介助の方がいてスタート地点で何か話してからカウントを取って後ろ向きに走り、跳ぶところで止まってまたカウントを取るようなことをしていました。目が見えない分、選手の方は音にとっても集中しているように思えました。3mくらい跳んでいて本当に驚きました。目の見えない世界で介助のパートナーさんを信じて音に集中して跳ぶってどんな感覚なのか、怖くないのか本当にすごく感動しました。（高橋 彩香）



初めての参加で、最初はすごく不安でした。障がい者の方とうまくコミュニケーションが取れるか、どのように行動したらいいのかとても不安だったけど、実際に接してみると、みなさん伝え方はいろいろだったけど、「ありがとう」と言ってくれてとても嬉しかったです。私はソフトボールを渡す係でした。だんだんと、「目の見えない人には手を触ってからボールを渡そう！」「足が悪い人にはスタート地点までボールを持って行って杖を持ってあげよう！」など、一人一人に合わせて自分も行動できるようになりました。また、ボランティアを通して学校の友達ともすごく仲良くなりました。私にとってとても貴重で楽しいボランティアになりました。（辻 香帆）

今回ボランティアに参加してみて、日常でかかわることのできない障がい者の方と触れ合うことができ、将来の夢に向かって必死にがんばっているみなさんのスポーツ大会に協力できて、間近でがんばっている姿を見て、良い気分が一日過ぎせました。中には家族で応援している方、その応援にしっかり応えようと精一杯がんばっている姿を見て強く心に感じました。もっとボランティアを通してたくさんの人と触れ合いながら、たくさん力になりたいと思いました！障がい者の方に「応援ありがとうございます」と言われた時は、人とのつながりはその日に会っただけだとしても強く一人一人の心に残るものだと思いました。（埴 彩香）



「明德にいる先生のことをもっと知りたい！」という月歩学歩学生委員からの声により、今回の月歩学歩学生委員ページは、専任教員の紹介ページになりました。学生委員が先生たちにインタビューし、写真撮影を行いました。次号は職員の方々の紹介ページになります！

教職員も皆さんと同じ、学校の一員です。この記事をきっかけに話しかけてみてはいかが？

こんなこと聞いてみました♪



① 担当科目 ② 座右の銘 ③ 最近のブーム

- ① 音楽表現とピアノⅡ、音楽表現演習、教養基礎演習、現代社会論
- ② 幼いうちは根っこを与えよ、大きくなったら翼を与えよ
- ③ 皇居ランナー



明石 現



池谷 潤子

- ① こどもと文化、保育内容演習、あそび実践演習
- ② 早寝早起き
- ③ Eテレ「コレナンデ商会」



石井 章仁

- ① 実習全般、保育内容演習、保育方法演習
- ② 勇往邁進：目的に向かってわきめもふらず勇ましく進んで行くこと。
- ③ ラーメンの食べ歩きツイト

- ① 保育者論、キャリアデザイン、保育方法演習、保育実習指導
- ② 普通
- ③ 親友の赤ちゃんにミルクをあげること



伊藤 恵里子

- ① 発達心理学、教育実習指導Ⅱ、保育方法演習、保育内容演習
- ② のびのび生きよう(願望)
- ③ ストレッチ(子どもと一緒にやっています。)

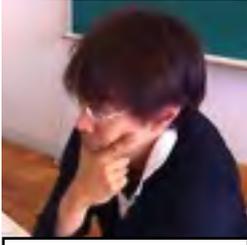


大村 あかね



金子 重紀

- ① 日本国憲法、児童家庭福祉、現代社会論
- ② のんびりいこう
- ③ 学長



小久保 圭一郎

- ① 教育実習Ⅱ、カリキュラム論、保育原論、保育内容演習、保育方法演習
- ② タフじゃなくては生きていけない。優しくなくては生きていく資格がない。By. フィリップ・マロー
- ③ ドラえもんから学べるかもしれない保育原論について考えること。

- ① 社会福祉、障害児保育、保育実習指導、相談援助、現代社会論、保育方法演習
- ② 臨機応変
- ③ テパ地下めぐり



佐藤 隆司

- ① 保育方法演習
- ② 一期一会
- ③ 色々な所に出かけること



柴田 大輔



高森 智子

- ① こどもと文化、あそび技能演習、教養基礎演習
- ② 転んでもタダでは起きぬ
- ③ ランニング (予定)



田中 葵

- ① 体育、あそび基礎演習 (身体表現)、保育方法演習
- ② Happy go lucky
- ③ 口笛 (挑戦中)

- ① メディア・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション
- ② 人はひとりでは生きられない
- ③ 毎日お酒を飲むこと



鶴田 真二

- ① こどもと文化、あそび基礎演習 (造形表現)、あそび技能演習、保育方法演習
- ② 五里霧中、来る者拒まず、去る者追わず
- ③ 音楽鑑賞 (アンテス地方の音楽、ネイティブアメリカンの音楽、女性シンガーの曲)、読書、写真、物作り



深谷 ベルタ



古山 律子

- ① 音楽表現とピアノⅡ、音楽表現演習、あそび基礎演習 (音楽表現)、保育内容演習、保育方法演習
- ② いつも前向き
- ③ ガーデニング



由田 新

- ① 教育原論、保育者論、保育内容総論、保育内容演習、保育方法演習
- ② なるようになる
- ③ 鶏肉を時間をかけてじっくり調理すること



# 教員からのおすすめ

## PROFILE



### 教員名

たかもりともこ

高森 智子

### 担当科目

こどもと文化、あそび技能演習、教養基礎演習

### メッセージ

この本のことを後日友人に話したところ、こんなことを教えてくれました。

「未来が見えないのは、光にあふれてまぶしすぎて目を向けられないからなんだって」

言葉は、言葉と呼ぶのかもしれませんが。この先、もしも皆さんが何らかの壁を感じて立ち尽くすことがあった時、支えてくれるのは大切に思える人と言葉かもしれません。

図書館でも、毎月先生方のおすすめコーナーから選んだ本を紹介しています。皆さんにも、たくさんのすてきな出会いがありますように。

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

今年度の第1回目は、図書館の高森先生から皆さんへのおすすめです。

## 「にいさん」

作：いせひでこ（偕成社、2008年）

何気なく開いた本から、思いがけない言葉をもたらすことがあります。「ひまわり」などで有名な画家ゴッホの生涯を、弟テオの目線で語ったこの絵本を偶然手にしたのは、数年前のことでした。

様々な挫折を経た後に、ようやく絵を描く喜びとめぐり合った若き日のゴッホは、夢と希望にあふれる気持ちを弟への手紙でこう綴ります。

「ぼくに未来はあるだろうか。あるさ、だって空には無数の星があって、ひとつがだめでも、どれかひとつくらいはぼくの星さ」

...この言葉を目にした瞬間、私は涙が止まらなくなってしまいました。

当時の私はパートをしながら正規の仕事を探していましたが、なかなか決まりませんでした。不採用になっても、もはや自分を否定されたような気持ちさえ起こらず、「ホラネ、ヤッパリダメダッタ」と予想していた結果を確認するだけのこととなり、泣くことすらできなくなっていました。そんな私の目に、この言葉は自分でも驚くほど強く映ったのです。

もちろん私は、この絵本でいうところの「自分を解放した」という彼の最期を知っています。どんなに願っても叶わないことだって、この先いくらでもあるでしょう。

けれども、もしかしたら本当に、いつか私だけの星が見つかるのかもしれない。どんなにちっぽけな、他人から見れば取るに足りないようなものであっても、この手につかみ取れる何かと出会えるかもしれない。そう思ったことで、真っ黒に塗りつぶされた未来にほんの少しだけ光が差し込んだような気がしたのでした。

いせひでこさんの絵本は、この他にもいろいろあります。心に沁みとおるような話がたくさんあるので、ぜひ手に取ってみてください。



# H O T NEWS new movement of this month in meitoku ! 明德速報!



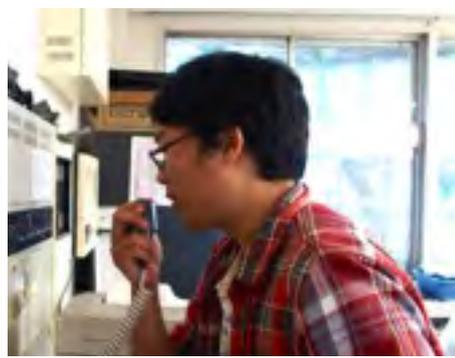
## 学友会選挙にいたるまで

5月17日（火）に行われた学友会選挙は、選挙管理委員長の杉本拓海さんを筆頭に、各サークルの長による選挙管理委員によって実施されました。

↓立候補者演説



↑どのように選挙を進めるか会議中



↑委員長 選挙案内校内放送中



↑投票用紙集め

↑公正に開票・集計中

## ♪ オープンキャンパス ♪



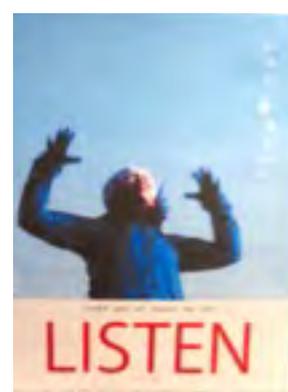
5月28日（土）、オープンキャンパスを開催しました！

今回の体験授業は、「こどもの歌とリトミック」「伝承遊びを体験してみよう」でした。在学生スタッフも参加者の皆さんと一緒に授業を体験しました。在学生スタッフの皆さん、次回もよろしくね♪ ちなみに次回は、6月25日（土）です！一緒に楽しみましょう！（鶴田）

## おすすめ映画



『オマールの壁』▶▶舞台はパレスチナ自治区。見終わった直後に書いたメモを見直すと、私が一番に感じていたことは苦しさでした。パレスチナで生きるとは。誰かに / 何かに自分の人生を握られながら生きるとは。占領と全く切り離せないパレスチナの日常が映し出されています。（鶴田）



『Listen』▶▶耳の聞こえない方々が奏でる「音楽」の映画です。上映時間58分、最初から最後まで無音。だから耳から聞こえるのではない。でも、身体の内側から溢れ出る音楽が見える、感じる、聴こえる、響く、ゆさぶられる。“音楽”や“身体”、“表現”について考えざるをえない映画です。（田中）



## 学友会役員決定

会長：鈴木 友斗

副会長：伊藤 克臣

書記：飯田 琴乃 田原 広美

会計：粟ヶ窪 瑠佳 川名 あゆ美



「学友会」は、学生皆さんが、豊かで充実した学生生活を送るため、そして相互交流を図るためにある組織であり、学生皆さん全員が学友会の会員です。そんな皆さんの代表となるのが、学友会役員です。そのため、自分たちの代表を選ぶという意味で、



選挙による信任投票が行われるのです。これから学友会を中心に、皆でより楽しく豊かな学校生活を創っていきましょう。さて、そんな皆さんの代表となった学友会役員から一言ずつ今後の抱負をいただきました。

鈴木 友斗

私は昨年も学友会の一員として活動していました。しかし、1年の頃はまともに仕事が出来ず、1年と2年との交流が少なく、うまくコミュニケーションが取れていない気がしました。なので、2年生になった今、1年との交流を深めて、もう一度新たな一歩として一から学友会を作り上げたいと思います。また、「明德の皆さん一人ひとりが学友会の会員である！！」ということを忘れずに、一緒に盛り上げましょう！！

伊藤 克臣

私は、今年の学友会は一から作り直していくという気合いを込めて、一生懸命取り組みたいと思います。

今年度、学友会の書記を担当することになりました。授業など、普段の学校生活に加えて、参加できることがあればやってみたいなと思い、入ることに決めました。よりよい学校作りと、自分自身の成長のためにも、1年間頑張りたいと思うので、よろしくお願いします。

飯田 琴乃

私が学友会に立候補した理由は、高校生の頃から生徒活動に参加し、高校3年生では生徒会長を務めていたため、明德短期大学に入学したら学校生活のために何か活躍できたらいいなと思っていただけです。学友会の書記として、また学友会の一員として、皆さんが楽しい学校生活を送れるよう頑張っていこうと思いますので、よろしくお願いします。

田原 広美

粟ヶ窪 瑠佳

私は学園祭等のイベントを楽しく最高の思い出になるような企画・運営をしたいと思っています。会計は、皆さんからの学友会費の管理をするので、すごく大事な役職です。だから、私は責任感を忘れず、頑張ります。まだ頼りない私ですが、みなさんと一緒に成長していきたいです。1年間よろしくお願いします。

入学して2ヶ月が経ち、授業・ピアノの授業、実習などたくさんの事を頑張ろうと目標があります。また、短大での自分は積極的に行動し、何か新しいことに挑戦したいと考え、学友会に立候補しました。みなさんが充実した短大生活を送れるよう、たくさん意見を出していこうと思います。

川名 あゆ美

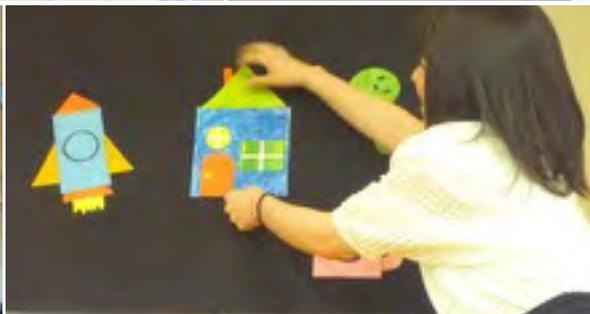
# スポーツ大会



5月21日(土)、「学年の境界を越える交流会」をテーマとした1・2年生の合同スポーツ大会とBBQが開かれました。スポーツ大会実行委員は2年生の卯月琳さん、片山未来さん、小林英里佳さん、杉本拓海さん、高橋幸那さん。BBQ実行委員は2年生の橋本淳さんと伊藤克臣さん。67名の学生が参加し、テーマ通り、学年の境界を越えて交流しました。



# Meitoku Snap



6月2日(木)、1年生授業「あそび基礎演習」2回目の合同授業を行いました。今回はパネルシアター作り。輝くばかりの豊かなアイデアが満載、教員も感動しました！丁寧な製作に比べ、このような柔らかな発想と「あそび心」はこれからも大切にしていきたいと思っています。

## 編集後記

新年度が始まって2ヶ月が経ちました。5月の明德は、2年生は頼もしく、1年生は生き生きと、自分たちで考えながら動いていた月だったように思います。そんな明德の様子が本誌を通して伝われば幸いです。動くことと考えることは両輪となり、明德で大切にしている「体験から学ぶ」ことにつながります。今、2年生は教育実習含め、自分の将来に向けた学びの最中にいます。今日が、一人ひとりの実りにつながりますように。(田中 葵)

編集：田中 葵 鶴田 真二

- 読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。

発行：千葉明德短期大学 千葉市中央区南生実町1412

- Tel:043-265-1613
- Fax:043-265-1627
- mail:tandai@chibameitoku.ac.jp
- web:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html
- blog:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai/campaslife/blog/html



## 明德の6月



3	金	教育実習Ⅱ～24日(2年生)
9.	木	Active Learning Week
10	金	(1年生)
15	水	教育実習指導日(2年生)
15	水	研修生スクーリング 保育体験Day(高校生)
23	日	保育実践研究会
25	土	オープンキャンパス
28	火	献花式
28	火	第59回スタバお話ライブ

